



Newspaper in Education

静岡新聞で学ぼう



記事を読んで、問いに答えましょう。

2021年3月31日夕刊西部版



大相撲場所で大相撲優勝を受け取る照ノ富士
29日、両国国技館

照ノ富士 大関再昇進

大相撲でモンゴル出身の29歳照ノ富士の大関返り咲きが31日、決まった。両膝の古傷や内臓疾患と向き合いながら、力強さを取り戻したかつての横綱候補。春場所です度の優勝を果たした勢いに乗り、再び最高位への挑戦が期待される。

何度も力説

復活支えた親方の信念

自暴自棄になって引退を申し出た弟子を何度も引き留めた。「力そのものが落ちたわけではない。体を治せばまたやり直すことはできる」。親方の信念が、復活劇の始まりだった。照ノ富士が十両だった9年前の夏場所、力が入らない状況で0勝9敗6休と、幕下転落が事実上決まった。看板力士の名を汚さないために、角界内には引退するべきとの声も聞かれた。だが、師匠に迷いはなかった。当時「周りの意見を気にする必要は全くない。前例がないから可能性がないというわけではない。人として大事なのはチャレと力説していた。自身は大関時代に5場所連続で12勝以上を挙げながら横綱に届かず、持病の膝臓(すいぞう)炎に苦しんで停滞した時期があった。逆境の中で野菜と米だけの食事療法に取り組み、夢を捨てずに最高位にたどり着いた。自身の経験があるからこそ、弟子が辞めたいと言ってきた時も首を縦に振らなかった。

大関経験者が序二段から臨んだ異例の挑戦で、再び花が咲いた。照ノ富士は「恥ずかしい姿をいつまでも見せられないと思った。もう一回できるんだという気持ちにさせてくれた」と感謝した。7月に61歳になる師匠の日本相撲協会定年まで4年余り。さらなる恩返しへ、時間は十分にある。

王鵬、大翔鵬
十両に復帰

夏場所番付会議

日本相撲協会は31日、東京・両国国技館で大相撲夏場所(5月9日初日・両国国技館)の番付編成会議を開き、史上2位の優勝32度を誇る元横綱大鵬(故人の孫、王鵬(おうほう)・21)本名納谷幸之介、東京都出身大嶽部屋と大翔鵬(だいしょうほう) (26)本名テミナレ(26)モンゴル出身、追手風部屋の十両復帰を決めた。新十両はいなかった。

王鵬は2場所ぶり、大翔鵬は4場所ぶりの

再十両。新十両なして、昨年11月場所以来。年寄「鶴電」を襲名した元横綱鶴電、元十両西華士錦ら21人の引退も発表された。

①照ノ富士関が序二段まで転落してしまった原因は何ですか。

()

②記事の中から、「復活支えた親方の信念」にあてはまる内容を見つけ、そこに線を引きましょう。

③親方自身には、「何に苦しみ、それをどう乗り越えた」経験がありますか。

()

④見出しの口には、親方が何度も照ノ富士関にかけた言葉が入ります。10字以内で書きましょう(句読点を含みます)。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

年 組 名前

作問者: 静岡新聞NIEコーディネーター 矢沢和宏

(小学校高学年~中学校/社会、総合)

